



かとう よしえ  
加藤 ヨシ江さん(70歳) 弥富市 鍋平

## 食べてもらいたいことを考えて

菜々耕房への出荷を行う加藤ヨシ江さんの畑にはトマトや黄ウリ、ササゲなど様々な野菜が植えられています。農業を始めるきっかけになったのは支店で見ただ農塾のチラシ。「定年を迎えてから色々と思い事を始めました。就農塾も家の畑をどうしようかと考えていた時にチラシを見て興味を持ち応募しました」。

就農塾で一年農業について学び、昨年からは出荷を始めた加藤さん。「まずは色々な野菜を試してみたいです」という言葉の通り、畑には様々な作物が実っています。「就農塾では『失敗のススメ』とよく言われました。昨年はトマトやナスがうまく成りませんでしたし、ピーマンでも品種によって出来が違っていました。実際に自分で栽培して気が付く場面がたくさんあり、日々勉強という気持ちで取り組んでいます」。

現在の苦労について聞くと「よく値段のつけ方で悩みます。自分が買うならいくらだろうと考えたりしますが量や品質によっても変わってきますし、産直会員さんそれぞれにポイントも違うのが難しいですね。栽培の技術だけではないのが産直の販売です。分からないときは周りの人に尋ねて参考にしてると話します」。

そんな加藤さんが栽培を始めて一番の楽しみだと話すのが自分の作った作物を家族に食べてもらう事。「パン教室に通ってからは孫たちにパンを

焼いてあげるのが日課になりました。野菜を育てるようになった今では、同じようにできた野菜を美味しく食べて欲しいという思いがあります。特に今年はブロッコリーが好評だったので、今年も続けて作っています。また、産直に出すようになってからは家族だけでなく色々な人に食べてもらえるという意識もあって、少ない数ですが毎日出荷を続けています」。

人に食べてもらう事を第一に考える加藤さん。そういった思いは栽培のこだわりにも表れています。「家族が食べることを意識して作るので肥料のタイミングや量などは基準に収まるよう気を付けています。まずは自分がお客さんの立場になったとき、安心出来るものを作りたい。買ってくれる皆さんにもぜひ美味しく食べてもらいたいです」とメッセージをいただきました。

